

## いなかをでて

私の住むこの場所は、阿蘇南外輪山。九州の脊梁であります。ここに日本最古のお宮と云われる幣立神宮があります。神宮の手前の屋根に降る雨は日本海に、奥の屋根に降る雨は太平洋に流れていきます。まさに分水嶺です。また、天津日嗣の神勅(政治)、稲穂の神勅(経済)、鏡の神勅(教育)の原点はこの地より出て行ったとされています。私は現在この神宮の横で世界平和道場の道場主として暮らしており、本業は東京方面の学校給食に食材を納入しています。



この地、幣立神宮には今、一般の方々はもちろん、政界、財界、芸能界と沢山の方たちがお見えになります。私は、仕事の合間あいまに、ここを訪ねて来られる方たちのお話の相手をさせて頂いております。来られる方たちの中には「生きるか、死ぬか」の悩みを抱えてくる人も沢山います。そして沢山の方たちがその悩みを解決して帰って行かれます、その時ほど嬉しく、幸せを感じる時はありません。しかし、それは、私がおの方の悩みを解決してあげるのではありません。それはその人本人が、ご自分で解決して帰られるのです。その働きこそが、ここ幣立神宮の持つ磁場なのです。

私は秋田県湯沢市に生まれ、18才で海上自衛隊に入隊、除隊後建材会社に勤めながら不動産取引を学び、小田原に会社を設立しました。折からの不動産ブームもあり、ある程度のお金もたまり、静岡にある温泉旅館を経営する事になりましたが、これからは失敗の連続でした。

気が付いた時には、家屋敷、会社まで処分して、残ったのは1億5千万の借金と妻と子供3人でしたが、その家族も一家バラバラになり、長男は伊豆に、次男は妻と一緒に愛知県の尾西市に、二才半の三男は東北仙台の親戚にお願いし、自分は九州にて訪問販売をしましたが、自分の暮らしは出来ても借金の返済に充てる余裕がなく、悩んでおりました。

35年前、みぞれの降る夜中に初めて来た幣立神宮にぬかずいたとき、かすかに聞こえて来たのです。「悩みを解決する種は悩みの中にある」と、、その時気付かせて頂いた、そのおかげで借金の返済も終わり、33年前離散した家族全員をこの平和道場に呼び戻し、三人の子供たちもそれぞれ結婚、二人ずつの子宝に恵まれ幸せに暮らしております。

追伸。日宮、幣立神宮は神代の時代に幣帛を立て天神地祇を祭ったとされており、以来幣立と言われます、幣帛とは神籬(ひもろぎ)とも呼ばれ、私たちにとっては「志」であります。全ての始まりは志にあります。(佐藤昭二(湯沢市))

## 台風10号 避難体験記

「おかあさ～ん 隣の家の屋根が無くなってよ～」子どもの声で外に出てみると、2階建てのアパートの屋根が跡形もなく吹き飛んで悲惨な姿に。平成3年の台風19号が去った朝のこと。九州の台風の恐ろしさを知りました。その後の台風でも、夜、職場で窓に映る自分の姿に「いつの間、こんなに太ったの？」とびっくり。強風でしなったガラス窓が魚眼レンズになっていたのです。床がガラスの海になる恐怖を感じました。

昨年台風10号、九州に近づくとつれて、「伊勢湾台風並み」「瞬間最大風速70m」「頑丈な建物に避難」さらに「命を守る行動」等の言葉がTVで飛び交っています。町の広報車が避難を呼びかけています。「これは、いつもと違うな」と、かつての光景が頭をよぎります。息子と2階のベランダのタキロンにロープを回し、強風で車を傷つけてはいけないと、たわわに実った庭の栗の枝をバツサリ。息子の「かわいそうに・・・」の一言が胸にグサリ。